

高田商事、国内屈指規模に

創業25周年 前期売上高290億円



高田常務

非鉄原料流通の高田商事（本社＝埼玉県幸手市、高田永清社長）は、着実な経営を重ねて創業25周年を迎えた。2005年に本社工場を開設して以降は、被覆電線の輸出だけでなく銅やアルミ、廃バッテリーなど非鉄スクラップ全般に取扱品目を拡大。扱ひ量を順調に伸ばし、非鉄リサイクル業者としても国内屈指の規模に成長した。23年3月期の売上高は前期比70%増の290億円と過去最高を更新している。高田高司常務は「今後は経営基盤を一層強固なものにし、SDGsに貢

ひばりヶ丘工場



献しつつ、さらなる事業拡大を目指したい」と意気込む。同社は電線スクラップの輸出商社として1998年に創業。18年の設備解体事業への参入で集荷量が強化され、足元の月間取扱量は5000トに上る。集荷範囲は関東圏を中心に全国に及ぶ。

これまで雑品・雑電線などスソ物品種の扱ひがメインだったが、近年は扱ひ品目の内訳が変容。銅ナゲットやアルミの印刷板などを含む1000系といった単価の高いウワ物の扱ひが増加傾向にある。今後は電気自動車

あり、自社で銅ナゲット加工事業も始めた。現在、同工場には被覆電線を破碎選別する乾式・湿式ナゲットラインを導入。足元のナゲットの扱ひ量は、他社への委託加工分も含めて月間1000ト前後に上る。このほかア

ルミスクラップはシュレッダー設備を活用し、格上げや販路開拓を進める。近年は社内環境の整備にも力を注ぐ。今年4月には事務所棟の建て替えが完了。刷新した計量管理システムにはITを活用し、スクラップの計量から精算までの業務効率化を図った。また食堂スペースを拡張するなど、従業員が働きやすい環境も整えている。

設備面では、業務効率向上のために重機の増設や入れ替えも進める。破碎機やプレス機を増設に加え、SDGs経営推進の一環として、フォークリフトのガソリン式から電動式への切り替えも順次実施している。社内環境の整備が着々と進む中、高田常務は「一次なるステップとして、高度な人材育成や新規事業の創出にも取り組んでいきたい」と話す。